

新潟の町 小路めぐり
 (新潟市中央区本町通界隈編)

この「新潟の町小路めぐり」新潟市中央区本町通界隈編は、新潟市が2007～08年にかけて本町通沿いの小路に設置した「小路案内板」をもとに作られています。江戸時代に形成された町並みが、いまもそのまま残っている新潟の町の歴史と魅力をも、小路の散策とともにぜひお楽しみください。

参考文献 「新潟歴史双書」(新潟市発行)
 「新潟市街角歴史案内」看板(新潟市)
 記載した内容は、歴史的には定説とすることが難しいものも含まれており、いろいろ誤があるかと思いますが、みなさまがまちづくりを考える際に役立てただけは幸いです。

小路散策の際には、近隣の方や通行する方のご迷惑にならないよう、節度ある行動をお願いいたします。

(小路めぐりの見方・使い方)
 ●持ち歩く時 折りたたんでページをめくるように見る
 ●壁に貼る時 中心で切り小路の番号順につなげる
 ●イラスト・写真:野内隆裕 @にいがたなじらねっと http://www.najir.net
 ●デザイン・本文テキスト:上田浩子
 ●制作協力:roji-ren niigata

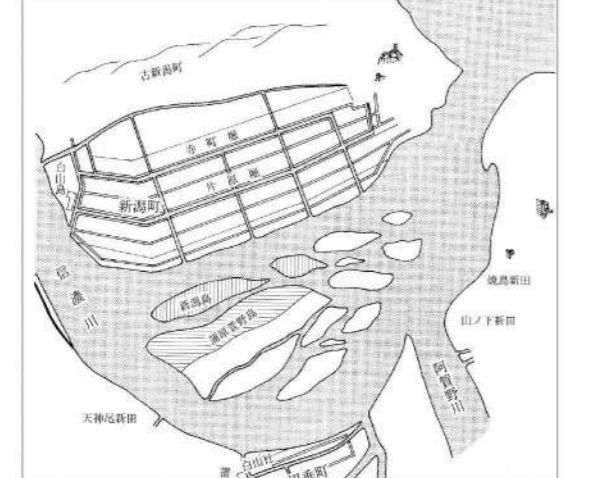
2011年11月18日、公益法人日本都市計画学会 創立60周年記念事業「自治体優秀まちづくり賞」を受賞しました!

企画制作 新潟市
 新潟市中央区学校町1番町602-1 TEL.025-228-1000
 ※無断転載・複製を禁じます

2008.3.25初版発行 08.3.31第2刷発行 08.7.10第3刷発行 09.3.4第4刷発行 09.9.5第5刷発行 10.7.6第6刷発行 2011.7.7第7刷発行 12.3第8刷発行

新潟の町に息づく小路 歴史と、路地的な佇まいの魅力。

●新潟町の町並み
 江戸時代のはじめ、信濃川左岸の新潟町は今より海岸寄り(現在の寄居町、旭町、大畑周辺)に位置していました(古新潟町)。しかし阿賀野川と信濃川が合流して湊が浅くなり使えなくなったため、川に近い場所へ町を移転、明暦元(1655)年にはその工事がほぼ完了しました。このときできたのが現在の新潟町です。当時は上(かみ)が白山神社境内地、下(しも)が洲崎町(古町通13番町)まで、幅は現在の上大川前通から西堀までの間でした。



●「堀」と「通り」と「小路」
 町の移転以降、川と海から運ばれてきた荷物を運搬・取引するため、信濃川の流に沿うように南北方向に寺町堀(西堀)・片原堀(東堀)という2本の「堀」と、その間に「通り」が設けられました。そして「堀」と「通り」に直交する東西方向には5本の「横堀」と多くの「小路」が設けられました。その後堀は埋め立てられ、昭和39年までにすべて道路に変わってしまいましたが、町並みや小路、堀の位置は当時のまま、昔から愛着を持って呼ばれてきた小路の名前もいまに伝えられています。



魅力的な小路をめぐって
 新潟市は2007～08年にかけて、本町通沿いの小路に名前の由来とイラストを盛り込んだ「小路案内板」を設置しました。このリーフレットは、その案内板のイラストを使って各小路を紹介しながら、白山神社から日和山住吉神社までをめぐっていく構成になっています。そしてそれは、白山神社から信濃川に沿うかたちで堀と通りを設けて形成された、明暦時代以降の町並みをたどる道筋でもあります。時代の流れの中で大きく姿を変えた小路もあれば、行き交う人を包み込む路地としての表情を残している小路もあります。それぞれの小路の魅力を楽しみながら、いまも町に残る新潟の歴史を感じてください。



白山神社と白山公園
 白山神社とその境内地が今の場所に定まったのは、17世紀半ばといわれています。江戸時代、白山神社の境内には商人の蔵があり、白山堀(後の一番堀)から米や商品を運んでいました。明治維新後、当時の新潟県令楠本正隆(1838～1902年)が日本最初の都市公園の一つとして白山公園を整備、日和山と並ぶ二大名所となります。ここにはみなとまち新潟らしいものがいくつかありますが、そのひとつが神社拜殿にある「大船絵馬」です。幕末期の新潟を代表する画家、井上文昌(1818～1863年)が年貢米を積み込む回船の光景を描いたもので、新潟県指定有形民俗文化財になっています。そしてもうひとつが「方角石」。港の水戸教(水先案内)に使うものですが、ここでは意外なものに姿を変えています。写真を参考に、ちょっと探してみませんか? 公園に隣接する県政記念館は明治16(1883)年に新潟県会議事堂として建てられました。明治前期に建てられた議事堂では現存する唯一の建物で、国指定重要文化財です。館内では古い写真の展示などもあります。



● 小路案内板・本町編の設置場所
 ● 小路案内板・古町編の設置場所
 ● 歴史案内板等の設置場所
 ● このマップで紹介している小路
 ● このマップで紹介していない小路
 ● おすすめ小路めぐりルート本町編
 ● おすすめ小路めぐりルート古町編
 ● 享保10(1725)年頃の堀
 ※昭和9年版「新潟市史」上巻所収図から作成
 ● 案内板のイラストに描かれている風景も探してみてください

おすすめルート 徒歩所要時間
 ● 白山神社→新津屋小路 40分程度
 ● 新津屋小路→御祭堀 50分程度
 ● 御祭堀→日和山 25分程度
 ※歩く速度には個人差がありますので、目安とお考えください。

歴史案内板等の設置場所
 1 白山神社脇 噴水前「この地の移り変わり」
 2 白山公園美由岐岡前新潟市街角歴史案内「楠本県令と白山公園」
 3 瑞光寺付近新潟市街角歴史案内「400年の歴史を秘めた新潟の寺町」
 4 NEXT21前新潟市街角歴史案内「奉行所から市役所四代、NEXT21への移り変わり」
 5 国際調理製菓専門学校前新潟市街角歴史案内「古町の移り変わり」
 6 新潟郵便局前新潟市街角歴史案内「新潟町会所から郵便役所、銀行への移り変わり」
 7 ホテルディアモント新潟前新潟市街角歴史案内「本町と笹谷小路の移り変わり」
 8 小三別館前新潟市街角歴史案内「江戸時代の新潟町の庶民の楽しみ」
 9 宗現寺前新潟市街角歴史案内「堀と柳」
 10 三葉会館前新潟市街角歴史案内「柳都・新潟」
 11 笹谷小路ゆうあい公園「旧新潟町の主な小路」
 ※11は小路名の由来一覧です。
 ★ 誘導サイン ※各種施設の方向と距離を示すサインです。

※現在、「御祭堀」は「五葉堀」と記されることが多く、「熊谷小路」は「横七番町通り」と呼ばれています。

新潟の町 小路めぐり
 (新潟市中央区本町通界隈編)

新潟の町
 小路めぐり

新潟町の主な小路の名前の由来と魅力

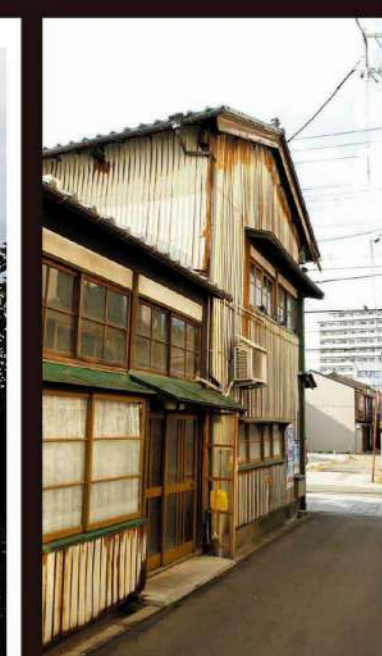


魅惑の路地空間
密集地、上本町
銅屋小路～舟蔵小路



2 銅屋小路(どやこうじ):昔、小路の東堀対岸(現東堀通一番町)に銅屋(新潟の方言で鑄物師)の屋敷があったのでこの名になったと思われる。

※小路の番号は地図記載の番号です。



4 舟蔵小路(ふなぐらこうじ):古い絵図には新右衛門小路などと記されている。小路の信濃川べりに舟を納める蔵が並んでいたことから、しだいに舟蔵小路と言われるようになったらしい。

●現在の町並みができた明暦の頃、当時大川と呼ばれていた信濃川の川岸は、現在の上大川前通のところにありました。本町通は信濃川岸と片原堀(後の東堀)に挟まれた通りで、古町通とともに多くの町民が店を構えていたといえます。通りがゆるくカーブしているのは、信濃川の流れにそって町が形作られたから。川と密接な関係にあった暮らしが垣間見えるようです。

歩きながらリラックスできそうな、ほっと一息つける小路が続きますよ。ポロポポー。



6 曲師屋小路(まげしやこうじ):古い絵図には全四郎小路と記されている。ここに曲師屋(木を曲げて、ふるいやせいろを作る職人)が住んでいたことから、曲師屋小路と呼ばれるようになったと思われる。明治の町名改正では、丁持小路とともに横一番町通と改められている。

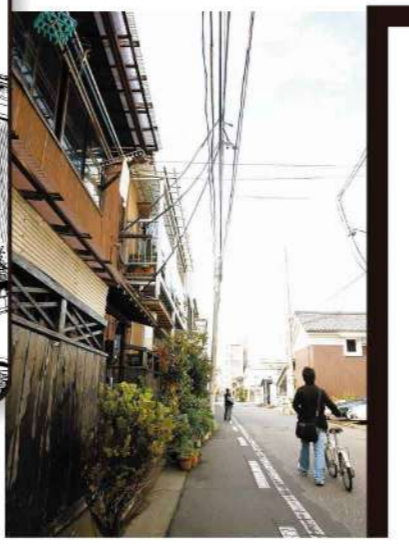
しつらいの小路に
包まれる
曲師屋小路～碓屋小路



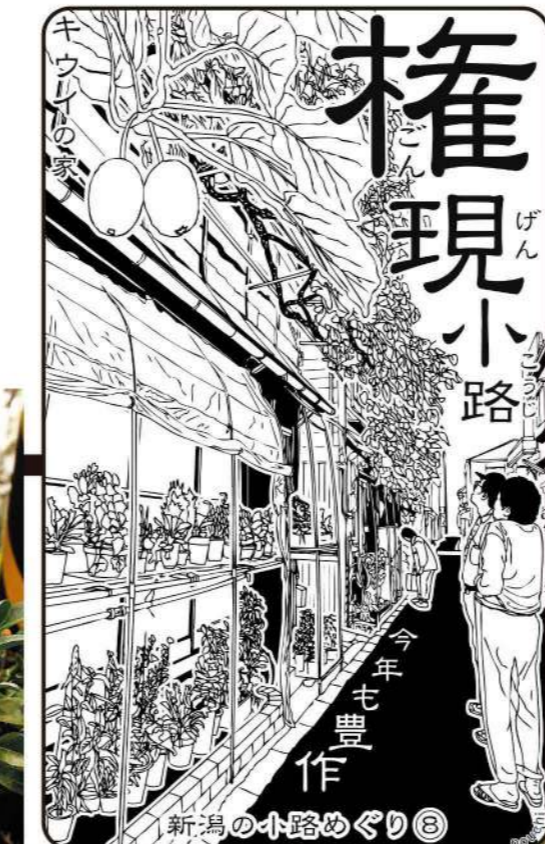
7 新川小路(しんかわこうじ):初めは平兵衛小路という上大川前通と東堀の間の小路であったが、そこに新川が廻り割れた。幕末までは埋め戻されて道になり、明治になって西堀まで延長された。堀があった時の名が使われている。



穏やかな住宅地が続くエリア。蔵や味わいのある建物も見ることができます。住んでいる方たちが大切に育てている樹木が小路の景色になっていて、とてもきれいですニャ。



10 碓屋小路(いかりやこうじ):江戸時代、上大川前通とこの小路の角に碓屋六蔵の外屋敷があったことから、碓屋小路と呼ばれたと思われる。



8 権現小路(ごんげんこうじ):江戸時代、古町には熊野権現社があり、権現社と東堀の間の小路は権現小路と呼ばれていた。その後、この小路につながる東堀と上大川前通の間の由右衛門小路も権現小路と呼ばれるようになった。



誰もいなくても、ここを大切にしている人の気配がする。小路には、そんな安心感がありますニャ。きっとそれが小路の魅力にもつながっているんですニャー。



11 鍛冶小路(かじこうじ):鍛冶屋ではなく、屋号か姓から付いた小路名と思われる。上大川前通と西堀の間の小路であったが、現在はその延長上の道も鍛冶小路と呼ばれている。明治の町名改正では横二番町通と改められた。

新潟の“巢鴨”から
上の本町市場へ
鍛冶小路～小原小路

服屋、魚屋、お茶屋さん。この界隈は東京の巢鴨みたいな佇まいが続くニャ。新津屋小路の白龍大権現にお参りするの忘れてはいけないニャ。



12 加賀屋小路(かがやこうじ):江戸時代、本町通とこの小路の角に加賀屋三九郎の屋敷があったことから、加賀屋小路と呼ばれたと思われる。古い絵図には、こんや小路、三九郎小路と記されているものもある。



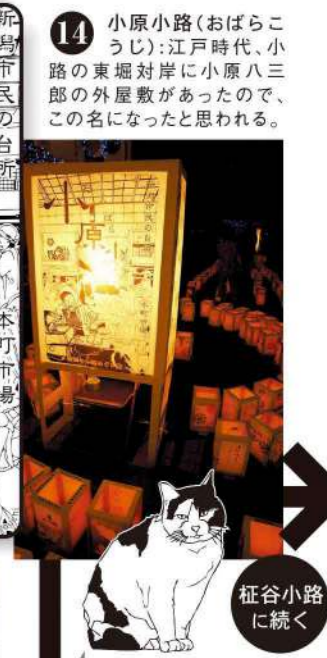
13 新津屋小路(にいづやこうじ):新津屋小路堀という堀の両側に付けられた小路であった。新津屋小路堀は、明治の町名改正で二番堀と改められた。堀は戦後になって埋め立てられ、広い小路になった。



●新潟町の中心である本町通と新津屋小路堀が交差するあたりでは、毎日朝市が開かれ、町の人たちの生活に欠かせない野菜・魚・穀類が売買されました。野菜などは近郷から船で運ばれました。(野内隆裕氏所蔵)



●新潟町の中心である本町通と新津屋小路堀が交差するあたりでは、毎日朝市が開かれ、町の人たちの生活に欠かせない野菜・魚・穀類が売買されました。野菜などは近郷から船で運ばれました。(野内隆裕氏所蔵)



14 小原小路(おばらこうじ):江戸時代、小路の東堀対岸に小原八三郎の外屋敷があったので、この名になったと思われる。

学校の総合学習に小路めぐりが登場したニャよ。08年の千灯まつりでは、本町通5・6番町の皆さんが小路イラストで大灯籠を作ってくれたニャ。きれいなニャー!



学校の総合学習に小路めぐりが登場したニャよ。08年の千灯まつりでは、本町通5・6番町の皆さんが小路イラストで大灯籠を作ってくれたニャ。きれいなニャー!

●新潟町の中心である本町通と新津屋小路堀が交差するあたりでは、毎日朝市が開かれ、町の人たちの生活に欠かせない野菜・魚・穀類が売買されました。野菜などは近郷から船で運ばれました。(野内隆裕氏所蔵)

にいがた名所日和山

●長谷川雪旦の描いた日和山
船乗りが、出帆を決めるために天候や風向きを観測する高台を「日和山」といいます。新潟の日和山の場所は、昔の町名でいうと片原通洲崎町の下(シモ)の突き当たり、現在の東堀通13番町で、名所として賑わっていました。長谷川雪旦(古町5~7の項参照)の「北国一覽写 出羽越後」に収められた日和山の絵には、頂上の松や遠めがねをのぞく人、沖の船、ふもとの茶屋と町などが描かれています。絵の上方に描いてある丸い石は、船頭や水戸教(みときょう=水先案内人)が使う「方角石」。現在日和山には、明治24(1891)年に奉納されたものがあります。



長谷川雪旦「北国一覽写 出羽越後」より 天保2(1831)年頃の日和山

●川村修就が描かせた日和山

新潟の初代奉行・川村修就(ながたか)が嘉永5(1852)年に作らせた新潟の風俗絵巻「蟹の手振り(あまてぶり)」には、日和山の脇を通過して津祭りへ向かう楽しそうな人々のようすが描かれています。この絵巻は新潟市歴史博物館みなどびあに保存され、複製の一部を見ることができます。



浜へ向かう津祭りの行列。その明かりは佐渡からも見えたとが



みなどまの象徴といえる方角石は、白山神社や曙公園などでモチーフに使われています。小路案内板や誘導サインにもありますよ



左:2011年の日和山。かつては上の絵巻書のような船見櫓がありました



●斎川小路(さいかわこうじ):江戸時代、東堀とこの小路の角に斎川四郎兵衛の屋敷があったので、斎川小路と呼ばれたらしい。



●熊谷小路(くまがやこうじ):江戸時代、本町通にはこの小路を挟んで熊谷市左衛門と宮田覚左衛門の屋敷があった。この小路を覚左衛門小路と記す絵図もある。熊谷小路は明治の町名改正で横七番町と改められた。



●放生津屋小路(ほうづやこうじ):江戸時代、本町通とこの小路の角に放生津屋徳左衛門の屋敷、東堀との角に右近三十郎の屋敷があった。この小路を右近小路と記す絵図もある。放生津屋小路は新潟言葉で「ほうぞや小路」などと発音される。

新潟みなどの水戸教発祥の地 日和山へ

熊谷小路～斎川小路
～日和山住吉神社



●熊谷小路(くまがやこうじ):江戸時代、本町通にはこの小路を挟んで熊谷市左衛門と宮田覚左衛門の屋敷があった。この小路を覚左衛門小路と記す絵図もある。熊谷小路は明治の町名改正で横七番町と改められた。



曙公園で一休み。音漢小学校があったところで、新潟市で3番目にできた公園だよ。方角石とおいらも探してね。



下本町市場のどこかに、新潟市出身の漫画家・高橋留美子さんの描いた看板があるから探してニャー。



●関口小路(せきぐちこうじ):江戸時代、本町通とこの小路の角に関口六助の屋敷があったので、関口小路と呼ばれたらしい。近くにある右近三十郎の名をとって右近小路と記す絵図もある。



●甚九郎小路(じんくろうこうじ):江戸時代からの小路名であるが、名のいわれは不明。新潟言葉で「ぜんくら小路」「じんくら小路」などと発音される。明治の町名改正では、横六番町通に改められた。

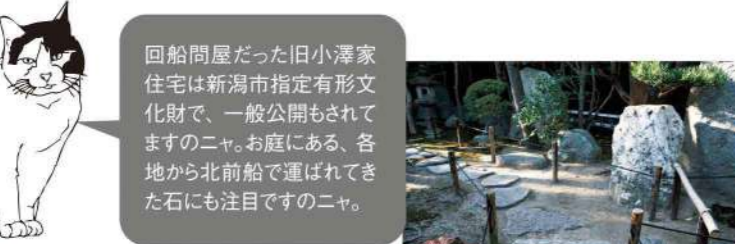


●茂作小路(もさこうじ):江戸時代からの小路名であるが、名のいわれは不明。「むさ小路」と記す絵図もあるが、新潟言葉のなまりと思われる。

茂作小路で子ども時代を過ごした画家の三芳梯吉さん(1910~2000年)。当時の思い出を描いた絵本「砂丘物語」(福音館書店)に茂作小路の町並みなどを描いています。



っていう歌ののこってるチャリよ(『新潟の町 古老百話』沢村洋編・新潟日報事業社)。小路の名前が覚えられて便利だチャリ〜。



回船問屋だった旧小澤家住宅は新潟市指定有形文化財で、一般公開もされますのニャ。お庭にある、各地から北前船で運ばれてきた石にも注目ですのニャ。

●江戸時代、回船問屋の大店のほとんどは大川前通(現在の上大川前通)や本町通に住んでいました。この周辺では、そうした回船問屋の建物や、古い町屋などを見ることができます。歴史を感じるお屋敷の板塀に沿って小路を通りぬけた先は、下の本町市場のにぎわい。人の暮らしの昔と今が、ここでは穏やかにつながっているようです。



●梅屋小路(うめやこうじ):江戸時代からの小路名であるが、名のいわれは不明。梅屋小路は新潟言葉で「むめや小路」と発音される。

板塀の町並みと市場のにぎわい

梅屋小路～関口小路



●思案小路(しあんこうじ):江戸時代、本町通とこの小路の角に貝屋次左衛門の屋敷があったので、元は貝屋小路と呼ばれていたが、幕末ごろから思案小路に変わったらしい。



御祭堀から続く



小原小路の続きはここから!裏返して、真ん中で折って見てスィ〜!



15 榎谷小路(まさやこうじ):江戸時代、本町通とこの小路の角に榎屋四郎右衛門の屋敷があったので、この名になったと思われる。上大川前通と西堀の間の小路であったが、明治末に拡幅、延長された。現在は延長された道も榎谷小路と呼ばれている。明治の町名改正では、横三番町通と改められた。



昔からのメインストリート榎谷小路には、地図の基準点になる道路元標があるのを知っているか?このわしも榎谷小路にいたのだが、見つけることはできるかな。



●新潟のメインストリート榎谷小路は、江戸時代には道幅は約6mの「小路」でした。その後、明治時代に萬代橋ができたときに拡幅をされ、さらに昭和の大拡幅で今のような大通りになりました。生活空間としての小路から、交通の要所としての道路へ。ダイナミックに変化していく町を、リアルに感じることができるエリアです。



16 八間小路(はちけんこうじ):江戸時代からの小路名であり、この小路には八軒の家があったことからこの呼称になったという。間と軒は同音であることから八間小路と記され、それが踏襲されて固有化されていったらしい。



17 新堀(しんぼり):初めは道心小路という小路であったが、そこに新堀が堀割られ、その両側が小路になった。新堀は明治の町名改正で三番堀と改められたが、堀は戦後になって埋立てられ広い小路になった。



住宅地の隣にビル、その谷間に現れる蔵とNEXT21。古いものと新しいものが交錯しているのが面白いスィ〜!



18 吹屋小路(ふきやこうじ):江戸時代、本町通とこの小路の角に吹屋理兵衛の屋敷があったので、吹屋小路と呼ばれるようになったと思われる。大正より昭和にかけて少女雑誌や絵本の挿絵画家として人気のあった露谷虹児は、幼少期から青年期まで新潟の町で暮らした。この小路名にちなんでペンネームをつけたのではないかとされている。



19 坂内小路(ばんないこうじ):江戸時代、本町通のこの小路の上手に坂内利兵衛の屋敷、下手に利兵衛の外屋敷があったので、坂内小路と呼ばれたと思われる。明治の町名改正では、横四番町通に改められた。



20 六軒小路(ろっけんこうじ):江戸時代からの小路名であり、古町の東側から大川前までの長い通し小路であったが、固有名が付けられたころ大きな家が多く、家数が六軒であったことからこの名がついたものと思われる。六間小路と記された絵図もある。



※イラストのレトロな建物は証券会社のもので、この辺りが新潟の金融街の中心だったことを物語っていましたが、2008年3月に解体されました。



21 広小路(ひろこうじ):広小路堀という堀の両側に付けられた小路であった。広小路堀は明治の町名改正で四番堀と改められたが、堀は戦後になって埋立てられ広い小路になった。



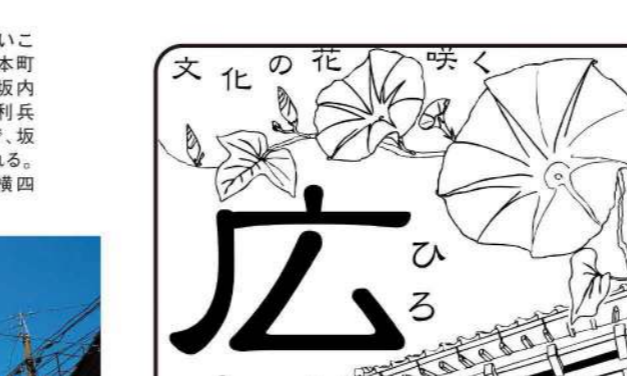
22 能登屋小路(のとやこうじ):江戸時代、本町通とこの小路の角に能登屋新蔵の屋敷があったので、能登屋小路と呼ばれたと思われる。



23 風間小路(かざまこうじ):江戸時代からの小路名であるが、名のいわれは不明。直線ではなく、東堀と古町通で食い違っていた。東堀と西堀の間は現在、拡幅され直線になっている。明治の町名改正では、横五番町通に改められた。



この界隈で一番大きく変わったのが、この広小路です。上の写真が2000年、下が2008年のもの。ずいぶんようすが変わりましたよ?



24 片桐小路(かたぎりこうじ):江戸時代、本町通とこの小路の角に片桐忠右衛門の屋敷があったので、片桐小路と呼ばれたと思われる。



25 片桐小路(かたぎりこうじ):江戸時代、本町通とこの小路の角に片桐忠右衛門の屋敷があったので、片桐小路と呼ばれたと思われる。



26 御祭堀(ごさいぼり):江戸時代、御祭堀という堀の両側に付けられた小路であり、古い絵図では「さい小路」「御菜堀」と記されることもあった。堀は明治の町名改正で五番堀とされたが、戦後になって埋立てられ道路となった。今は「五菜堀」と記されることが多い。



●昔の新潟町は、地域ごとに職業が決まられていました。風間小路から片桐小路、御祭堀のあたりは「着(さかな)町」または「助買(すけご=魚屋)町」と呼ばれる地域で、現在の本町通11番町の西側には「大助買(おおすけご)」と呼ばれる魚問屋が並んでいたといえます。当時新潟町で魚の店売りができるのはここだけでした。片桐小路案内板のイラストに描かれているのは、以前蒲屋さんだった名残の煙突。「すけごまちからつづくみち」の名残でもあるのですね。



27 能登屋小路(のとやこうじ):江戸時代、本町通とこの小路の角に能登屋新蔵の屋敷があったので、能登屋小路と呼ばれたと思われる。



28 風間小路(かざまこうじ):江戸時代からの小路名であるが、名のいわれは不明。直線ではなく、東堀と古町通で食い違っていた。東堀と西堀の間は現在、拡幅され直線になっている。明治の町名改正では、横五番町通に改められた。



29 片桐小路(かたぎりこうじ):江戸時代、本町通とこの小路の角に片桐忠右衛門の屋敷があったので、片桐小路と呼ばれたと思われる。



風間小路と本町通が交差する所にあるのが「日本料理大橋」本館。この建物は、新潟町の初代奉行川村修就の下屋敷の後に建てたもので、国の登録有形文化財なんですニャー。さらに東堀へ足をのぼすと、このお奉行さんが「開の戸」と名付けたお菓子「新潟奉行菓」を作っている、「フクヤ菓子舗」がありますニャー。



30 御祭堀(ごさいぼり):江戸時代、御祭堀という堀の両側に付けられた小路であり、古い絵図では「さい小路」「御菜堀」と記されることもあった。堀は明治の町名改正で五番堀とされたが、戦後になって埋立てられ道路となった。今は「五菜堀」と記されることが多い。



31 片桐小路(かたぎりこうじ):江戸時代、本町通とこの小路の角に片桐忠右衛門の屋敷があったので、片桐小路と呼ばれたと思われる。



32 御祭堀(ごさいぼり):江戸時代、御祭堀という堀の両側に付けられた小路であり、古い絵図では「さい小路」「御菜堀」と記されることもあった。堀は明治の町名改正で五番堀とされたが、戦後になって埋立てられ道路となった。今は「五菜堀」と記されることが多い。



回船問屋や漁業を営んだお屋敷がみなとまちの歴史を伝えていますのニャ。本町通の市場もいかにジューズニャ。



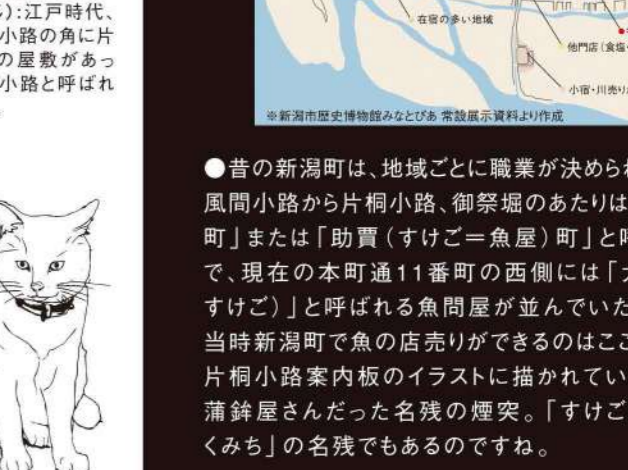
33 御祭堀(ごさいぼり):江戸時代、御祭堀という堀の両側に付けられた小路であり、古い絵図では「さい小路」「御菜堀」と記されることもあった。堀は明治の町名改正で五番堀とされたが、戦後になって埋立てられ道路となった。今は「五菜堀」と記されることが多い。



34 片桐小路(かたぎりこうじ):江戸時代、本町通とこの小路の角に片桐忠右衛門の屋敷があったので、片桐小路と呼ばれたと思われる。



35 御祭堀(ごさいぼり):江戸時代、御祭堀という堀の両側に付けられた小路であり、古い絵図では「さい小路」「御菜堀」と記されることもあった。堀は明治の町名改正で五番堀とされたが、戦後になって埋立てられ道路となった。今は「五菜堀」と記されることが多い。



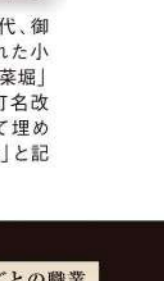
梅屋小路に続く



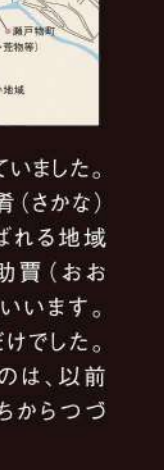
梅屋小路に続く



梅屋小路に続く



梅屋小路に続く



梅屋小路に続く